

若者の地域コミュニティに関する研究

～高知市潮見台ニュータウンを事例に～

1210476 谷本郁弥

高知工科大学 経済・マネジメント学群

1. 概要

本研究では、近年、若者や活動的な世代の大人の地域コミュニティに対する参加意識の低さに着目した。とくに、都市部や都市近郊ニュータウンでその傾向がみられる。そこで、本研究では高知市近郊のニュータウンである潮見台地区を対象として、若者の地域コミュニティ参加に求められるものを明らかにした。

その結果、高齢者を含む自治会側からの視点で若者や活動的な世代の参加率は低いことが示された。また、若者からの視点では、地域に愛着はあるが参加意識は低いことも示された。

本研究の成果から、若者や活動的な大人の地域コミュニティへの参加率向上には、子どもたちを対象としたイベントや定期的な地域のイベントを実施し、地域コミュニティの場を現在以上に増やすことにより、地域コミュニティが活性化されることが示唆された。

2. 背景

地域の高齢化問題から、地域活動を高齢者が行う地域が増えている。地域活動を高齢者のみが継続して行うことは困難であり、若者や活動的な大人も地域コミュニティへの参加をすることが必要不可欠である。

しかし、近年、核家族化の進行により、地域の盛り上げよりも自分のライフスタイルや住まいの方が大切という考え方が増えている。これにより、地域活動に参加しない若者が増えてきており、昔から地域活動を行っている高齢者と、引越してきた人や若者の間で、意識の違いが生じてしまう。この状態が続くと、地域活動が衰退するだけでなく、地域の安全に問題が生じることが懸念されている。地域活動に対し、高齢者だけでなく若い世代が加入することで、新たな考え方や高齢者に負担がかかる作業などを補うことができ、地域活

動が円滑に進むだけでなく、安心・安全の地域づくりにも繋がるのではないかと考えられる。そこで、本研究では地域活動をしている高齢者と、地域住民である若者や活動的な大人に視点をあて、若者の地域コミュニティへの意識向上や、どのようにしたら地域コミュニティに参加するのかについて研究する。

既往研究では、一例をあげると現住地における生活環境への評価からの平均値より、利便性に関しては評価が高いが、地域コミュニティに関しては評価が低い。また、人口過密地域ではより大きく差が出ることが示されている。既往文献調査を通して、歴史が浅いニュータウンでとくに地域コミュニティに対する意識が低いことが分かる。しかし、地域コミュニティへの参加意識が低い原因やその対策についての論文は見当たらなかった。そこで、高知県にある潮見台ニュータウンを事例に研究を行う。潮見台ニュータウンは建設されて30年が経ち、少子高齢化が進んでいる地域であるが、活動的な大人の世代が多いという特徴から本研究の研究に選定した。

3. 目的

本研究は、若者がなぜ地域活動に参加しないのかについて原因を明らかにするとともに、若者や活動的な世代の大人も積極的に参加できる地域コミュニティの方向性を提示し、全国各地の地域コミュニティが少ない地域での、将来の方向性を提案する。

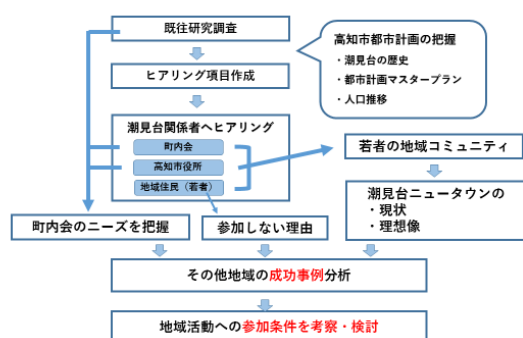
4. 研究方法

本研究は以下（図1）のような手順で行う。始めに、大都市近郊のニュータウンの現状について既往研究を用いて分析する。そして、30万都市である高知市のニュータウンで当てはめるとどうなるか、高知市潮見台ニュータウンを分析し

ていく。

次に、高知市都市計画について、高知市都市計画マスタープランや人口統計をもとに人口推移や現状を把握する。そして、高知市役所地域コミュニティ課や自治会長、住民にもヒアリング調査を重ね、潮見台地区の現状を把握し、分析していく。また、潮見台以外の地域で、地域活動を行っている方々にもヒアリング調査を行い、成功事例も取り入れる。

最後に、若者が地域活動に参加しない原因を明らかにするとともに、その他地域の成功事例を潮見台ニュータウンでも採用することができるのか、再び自治会長のもとでヒアリング調査を行う。そして、若者も参加できる地域コミュニティを提示する。



（図1）研究手順

5. 潮見台ニュータウンの概要

高知市の人口増加に伴い住居が必要となり、高知市内や高知市周辺でニュータウンが計画された。その中に潮見台ニュータウンも含まれ、計画された。潮見台ニュータウンは、1985年、ミロク製作所・三井建設により高知市の東端に大住宅団地の計画がされた。その後、1986年には高知県から都市計画法による開発許可が下り、宅地開発がすすめられた。1989年3月には住宅団地造成工事が完了し、宅地分譲を開始した比較的新しいニュータウンである。バブル崩壊や高い地価の影響で売れ行きが悪く、3年後の1992年には大幅値下げを行った。現在では1150戸1300世帯が入居した高知市内では比較的大きな住宅地となっている。

潮見台地区の人口推移については、1995年に小学校が建設されたことから、年々増加を続け、2000年には3857人が暮らしていた。しかし、その後は徐々に減少を続け、2020年10月現在では、3181人が暮らしている。アパート

やマンションはなく、戸建ての家ばかりであるため、単身世帯の若者はあまりいない。そのため、親世代との同居か夫婦として潮見台に家を持っているかのどちらかになる。また、細かい人口推移を見ると、後期高齢者ではなく50代～70代が多いことが分かった。そのため、現時点で高齢化地域の中ではまだまだ元気な地域であると考えられる。また、壮年層の減少幅が小さいことから高齢化が一番の問題ではないことも考えられる。そこで、自治会長にヒアリング調査を実施し、潮見台ニュータウンの地域活動の状況を把握する。



（写真1）建設当時の潮見台ニュータウン（潮見台公民館より）

6. 潮見台地区の地域活動

6-1. 潮見台自治会長へのヒアリング調査

潮見台地区の地域活動について現状を把握するため、潮見台自治会長の藤川さんにヒアリング調査を行った。

目的

潮見台ニュータウン地区の自治会活動について現状を把握する。

日時

2020年11月24日

対象

潮見台自治会 会長 藤川聡詩さん

・ヒアリング質問内容

- ① 潮見台自治会活動の現状
- ② 潮見台自治会活動の課題
- ③ 住民からの要望事項
- ④ 今後の地域全体の理想像

6-2. 自治会長へのヒアリング結果

①潮見台地区の自治会活動は「夏祭り」、「地区の運動会」、「敬老会」を三本柱に、3か月に一度の「一斉清掃」や1年に一度の「防災訓練」も行っている。役員は、主に17名で活動しているが、その多くは10年以上続けている方ばかりで、新しく入る人はいない。毎年潮見台ニュータウンの中で、細かく地区で分けた一年交代制の班長もいるが、地域の便りを配る程度で、活動にはあまり参加しない。地域全体の印象としては、「あなたやる人、私見る人」の考え方が多いので、結局同じ人が役員や地域の活動を行っている。

②若い世代があまり参加しないことが大きな課題となっている。一斉清掃の参加率がとくに悪く、日曜に行っているためか、日頃の疲れや子育てを理由に参加しない人が多い。地区の運動会の場合も、子どもと高齢者は参加しているが、真ん中の世代が参加しないので出来ない競技や運営が難しくなっている。また、公園の草刈りやゴミ拾いは、ボランティアとして高齢者が主体となって行っている。このような活動についても若者が参加しないのが課題である。

③住民からは、ペットのトラブルと駐車場についての問い合わせの二つである。ペットのトラブルについては、地域の便りに書いて知らせるといった対策をしている。駐車場については、潮見台ニュータウンが建設されて30年経つので、住民の年齢層も上がり、一家に二台以上の車を持つ人が多く、駐車場が足りていないのが現状である。しかし、駐車場を作る土地がないことや、空き家が出来ても不動産が管理するため、私たち自治会が空き地や空き家を駐車場にすることは出来ない。私たちが出来る対策としては、年末年始など帰省する人が多くなる時期は、ハロールーム（公民館）の広場を開放して駐車場にしている。

④「古き良き町内会」を目標にみんなが団結して横の繋がりがあがる街にしたい。また、祭りの運営や公園の草刈りなど、現在は高齢者が行っていることも、若者が積極的に行うような街づくりを目指したい。

6-3. 自治会長に対するヒアリング結果のまとめ

ヒアリング調査で明らかになったことは、潮見台ニュータウンの住民は地域活動に対する意識が全体的に低いことである。その中でも、地域活動の参加率は若者がとくに少ない。

また、潮見台ニュータウンは後期高齢者が少なく、地域活動は高齢者だけでも成り立っているが、現在地域活動を行っている60代70代の方々も、今後後期高齢者に代わっていくことから、若い世代の大人の参加が望まれる。

現状、自治会の主要な活動であるごみ拾いや草刈りは、主に70代以上の住民が行っているだけでなく、参加者は一部に限られている。自治会の役員は10年以上同じ人が継続しているということである。課題としては、住民間同士でのコミュニティが少ないため、地域活動への意識が低くなっているということである。入居時期が異なることや、様々な地域からの転入者がいるという潮見台ニュータウンの特徴から、住民間同士での横のつながりが少ないため、役員になる人が減り、地域活動への参加率も悪くなっている。

以上整理すると、自治会会長が感じている課題としては、

- ・70代以上が主体となる草刈りやごみ拾い
- ・役員を同じ人が継続
- ・一斉清掃や地区の運動会での参加者が少ない
- ・人任せの住民が多い

の4点が挙げられた。

7. 地域住民（若者）へのヒアリング調査

次に、若者の地域コミュニティへの考え方を把握することを目的として、潮見台ニュータウンに住む若者（20代）にヒアリング調査を行い、自分の住んでいる町の評価を行ってもらった。

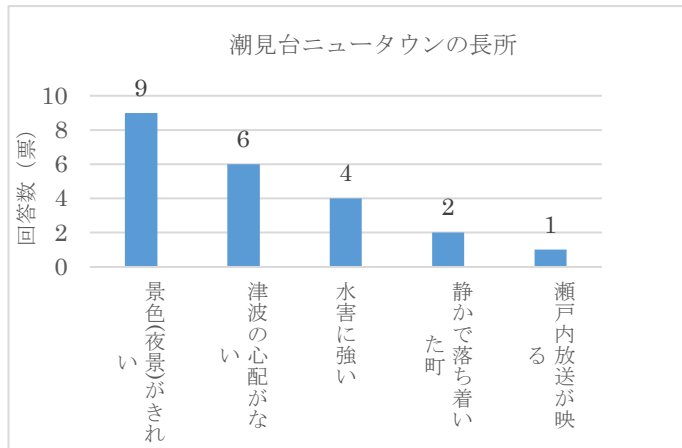
7-1. 地域住民に対するヒアリング調査の内容

潮見台ニュータウンに住む20代の若者をターゲットに、潮見台ニュータウンの長所と短所についてヒアリング調査を行った。生まれてから現在まで潮見台ニュータウンに住んでいる、または住んでいた20代の男女20名に回答を得た。回答期間は2020年11月上旬～12月上旬の約一か月間である。

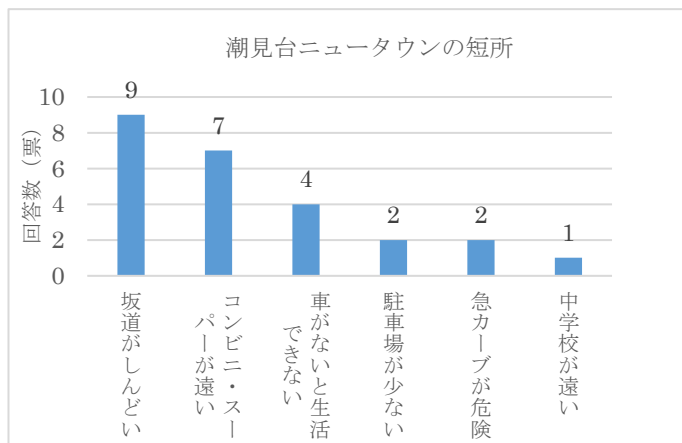
- ・ヒアリング調査内容

- | |
|---------------|
| ①潮見台ニュータウンの長所 |
| ②潮見台ニュータウンの短所 |
| ③地域活動で知っていること |
| ④地域活動への参加条件 |

7-2. 地域住民に対するヒアリング結果



(図2) 地域住民(若者)が感じる潮見台ニュータウンの長所(複数回答を含む)



(図3) 地域住民(若者)が感じる潮見台ニュータウンの短所(複数回答を含む)

①「景色(夜景)がきれい」という意見が最も多かった。次に、「津波の心配がない」や「水害に強い」といった自然災害への強さを長所とする意見が挙げられた。また、「静かで落ち着いた町」や「瀬戸内放送が映る」などの少数意見も挙げられた。

②潮見台ニュータウン短所は、長所と比較すると意見の種類が多くなった。最も多かったのは「坂道がしんどい」で、この意見に関連して、「車がないと生活できない」や「急カーブが危険」などの意見が挙がった。また、「コンビニ・スーパーが遠い」や「駐車場が少ない」などの意見もあった。

③「夏祭りは知っている」という意見が最も多く、「知らない」や「小学生のころ一斉清掃に参加した」が次に多い意見となった。また、ボランティアで住民である高齢者がごみ拾いを行っている事実を知っている意見もあった。

④忙しいから地域の活動は手伝うことが出来ないという意見が最も多かった。親や知り合いがもともと地域活動を行っていないので、何をしているか知らないといった意見や参加の仕方も分からない、という意見も挙げられた。そんな中で、「店を作る」や「夏祭り以外にも地域のイベントを行う」という意見の理由として、店がないから外へ買い物に行き、大きなイベントが夏祭りしかないからその他の季節では外へ出ていく。店が潮見台ニュータウン内にできると、地域内のごみ問題や雑草の発見につながるのではないかと。また、夏以外にも地域内でのイベントを行うことで、潮見台ニュータウンの地域活動を知る機会が増えるのではないかと。といった具体的な理由も含めての意見も挙げられていた。

7-3. 若者に対するヒアリング結果のまとめ

ヒアリング調査で明らかになったことは、若者は潮見台ニュータウンに対し、生活上の不満や利便性の評価ということである。そのため、潮見台ニュータウンの地域活動に対する意見は少なかった。

長所は、「景色がきれい」や「津波の心配がない」、水害に強い」といった山の上に新しく建設された団地ならではの意見があった。また、「静かで落ち着いた町」という意見は、団地近辺に店や大きな道路がなく、団地自体が行き止まりとなっていることから評価であると考えられる。少数意見としては、「瀬戸内放送を見ることが出来る」という意見が挙げられた。これは潮見台ニュータウンの団地を建設する際に、団地全体が高知ケーブルテレビを見られるようになっており、高知県では見ることが出来ない「テレビ朝日」が映ることが長所として挙がっていた。

このような長所に対し、山を開拓して建設されたことが反対に短所となっていた。生活する上で坂道やカーブが多いことは不便であり、危険でもあるということが分かった。また、以前は一丁目にスーパーがあったが、客数の減少などから現在では高齢者向けのデイサービスに代わった。そのため、スーパーが地域内になくなり、元々コンビニが建設され

ていなかった事情も含め、潮見台ニュータウンの住民は買い物が増えてしまった。潮見台自治会長さんのヒアリング調査でも挙げられていた駐車場がたりないという問題や、コンビニなどの店ができないという問題は、潮見台ニュータウンの地理的な問題に関連していると思われる。山の上に建設されたことから、潮見台ニュータウンには店や住居、駐車場を建設する土地が余っていない。そのため、若者が住む町より、車を持った壮年層が落ち着いた所で長く暮らす町へと変化していったのではと考えられる。

潮見台ニュータウンの地域活動への意見としては、「夏祭りは知っている」という意見が最も多かったことから、祭りは地域活動の一つとしての意識はあることが分かった。そして、潮見台ニュータウンの住民は自分の地域内で生活が完結することは少ないため、外へ出ていく機会が増えてしまう。潮見台ニュータウンで店舗を充実させていく及び魅力あるイベントが定期的に開催されることで、自然に参加する若者や活動的な大人世代は増えるのではないかと考えた。

7-4. 自治会経験者と若者の意識の違い、ギャップ

若者は潮見台ニュータウンに愛着はあるが、地域活動に参加したいという意識は少ない。若者は潮見台ニュータウンに対し、店の少なさや坂道の多さなど、生活上での利便性を求めていることが明らかになった。このような若者の意見に対し高齢者を含む自治会側は、バスが運行されていることやスーパーの移動販売車が定期的に来自ることから、利便性への不満は少ない。その結果、若者の地域活動の参加を求める意見となった。また、若者は地域活動に対して「知らない」と答えた人が最も多いことから、若者と高齢者の間で地域活動への考え方の違いが明らかになった。これらの意見を含めて、若者も参加するためにはどうしたら良いのか対策案を考えていく。

若者の視点から見ると、潮見台地区には店舗数が少なく、買い物・飲食をするために域外へと行動範囲を広げる傾向にある。よって、ある程度地域内で買い物・飲食行動が可能となる政策を行うことで、より地域愛を高めていくことが望まれる。一方、自治会を含む高齢者側は若者をより活用し、お互いのコミュニケーションの場を増やすことが重要であると考えられる。参加率向上の意見として、「夏祭り以外にもイ

ベントを行う」という意見が出たことから、地域イベントが必要なのではと考えた。地域内でイベントを行うことが出来れば、地域住民同士の仲が深まり、世代間交流を行うことが出来る。結果として、地域活動への関心も高まるのではないかと考えた。高齢者だけでなく、若者や活動的な世代の大人が参加する地域イベントの成功事例を調査し、分析する。また、地域活動についても、その他地域の成功事例をいくつか取り上げ分析し、潮見台ニュータウンにも当てはめていく。

8. 地域コミュニティ形成にかかる成功事例分析

8-1. その他の地域活動の成功事例

高知市の中で、地域活動や地域のイベントを活発に行っている横浜新町地区や蒔絵台地区に関して、ヒアリング調査を行った。

日時

2020年12月16日（水）

対象

片岡さん

・ヒアリング質問内容

- | |
|----------------------|
| ① 住民を地域活動に参加させるための工夫 |
| ② 地域で行ったイベント |

① 同じ人が何年も続けている状況だったので、自治会長を毎年交代するように設定した。会長や役員になると地域の活動を熱心に行ってくれる。しかし、次に会長や役員になってくれる人を探すのが困難になっている。そのため、引き継ぎが難しく住民みんなが地域の活動にもっと関心を持ってほしいと思っている。そこで、まずは地域住民や子どもたちの要望に応えることが重要だと考えて、意見を取り入れるようにした。

② 高校生から20代の若者たちを地域の活動に参加させるのは難しい。そのため、小学生の子どもをターゲットとしたイベントを考えてきた。小学生が喜ぶイベントとはどういったものか考えることで、親子参加型イベントの場合は大人にも地域の活動を知ってもらう良い機会となる。

次に、地域づくりの事例を収集した。

(成功事例1)「フォトラリー」

ニュータウンは歴史が浅く、伝統文化や神社、史跡などが

地域内に少ない。子供たちを対象としたイベントでは、「史跡巡り」がよく行われている。このような子供たちが参加できるイベントの実施について、ニュータウン地区でも行いたいと考えていた。

そこで、地域内にある小さなカフェや公園、住宅街の何気ない風景を撮影し、子供たちがその撮影場所を探すというイベントを提案し、実施した。写真は全部で45枚用意し、珍しいものや見つけることが困難なものには点数が高く設定された。制限時間を設け、終了後にそれぞれの得点を集計し、景品を用意していた。子供が主体であるため、学校で募集を行い、当日は60人の参加者が集まった。このイベントは、地域の魅力を再発見してもらうだけでなく、子供たちに地域の活動について知ってもらうことも目的とされ、地域内の世代間交流につながった。子供を中心とした地域のイベントだが、小さな子供には親も一緒に参加するため、子供だけでなく、若い大人も地域の活動を知る良い機会となった。このイベントは、その他地域でも行われた。

成功要因としては、準備や場所の確保が容易ということである。地域のイベントを開催する際は、計画から場所の確保や当日の運営など、自治会役員への負担が大きくなる。しかし、このイベントの場合は地域の公園を中心に参加者はそれぞれの場所へ移動するため、運営の負担が少ない。また、地域の写真を撮る側である自治会と、探す側である参加者の両方が地域の魅力を再発見できることが成功へと導いた。

フォトラリーで 地域の魅力再発見

私たちの住むまちの“とっておきポイント”を、友達や家族、仲間などのチームで巡ることを通して、まちの魅力やお宝を再確認しましょう！また、チームで活動して、住民同士の連帯感を高め、心身の健康を高める機会としましょう！

日時：平成29年11月19日（日）10時～13時（予定）
雨天中止

集合場所：蒔絵台集会所
参加費：中学生以上500円
小学生以下300円（軽食・景品代含む）

※申込について
1チーム2名～5名
・小学4年生以上は子ども同士のチームでもOK
・小学3年生以下は大人と一緒に参加してください

ゲームの説明
地図をもとに、決められたチェックポイントを制限時間内で回り、得点を集めるゲームです。チェックポイントでは、見本と同じ写真を撮影します。

景品あります！

※持ち物※
・飲み物
・デジタルカメラ、携帯電話など
（撮った写真をその場で確認できるもの）

※注意事項※
・動きやすい格好で参加してください。
・車には十分注意してください。走らず、歩く。
・駐車場の数に限りがありますので、できるだけ乗り合わせてください。
・事前のお問い合わせは、下記事務局までお願いします。

【主催】横浜新町まちづくり市民会議 【後援】蒔絵台町内会
【申込・問い合わせ先】事務局（高知市地域コミュニティ推進課）
TEL 823-9080（担当：西村） ※電話受付時間 8:30～17:15（土日祝除く）
当日連絡先：市民会議事務局 片岡（090-8286-6807）

きりとり

フォトラリーで新町の魅力再発見（まちづくり市民会議） 申込〆切：11月10日（金）

★ チームメンバー ★ チーム名（ ）

	名前	クラスなど	年齢	性別	電話番号
1			オ		
2			オ		
3			オ		
4			オ		
5			オ		
記入例	高知 太郎	〇年〇組、保護者など	〇才	男・女	×××-×××-××××

※子どもだけのチームは、電話番号の欄に、保護者氏名・電話番号を書いてください。

（図6）フォトラリーの小学校向けチラシ

（成功事例2）年に一度の草刈り、参加率を上げるための対策

高知市の横浜地区の一部地域では、その地域内にある下水処理場周辺の草刈りを年に一度行っていた。しかし、地域住民の高齢化も進み、参加率の悪さに悩んでいた。そんな中、「地域の子どもが参加すると、自治会から子どもにお小遣いをあげる」という対策を行った。子どもが参加しない場合は親から協力金として3000円を徴収するという決まりを作った。

子どもがいる親は3000円を払いたくないので、草刈りに子どもを参加させる。草刈りという名の地域活動に対し、子どもだけでは不安になるので、親もついてくる。その結果、小学生の子供たちと若い親世代の大人が参加し、草刈りの参加者が増加した。大人の参加率を上げるため、まずは小学生の子どもを対象に考えることで、子どもと親世代の大人といった幅広い世代間交流が行われ、清掃活動だけでなく地域活

草刈り

参加

子

不参加

子

協力金 3000円

自治会

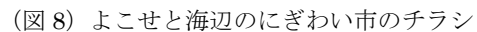
住民A

住民B

成功要因としては、清掃活動と地域のお金の循環に着目したことでと思われる。清掃活動というマイナスなイメージの地域活動に対し、子どもたちが進んで参加できる地域活動について子どもたちを優先的に考えることは、ニュータウン地域だけでなく少子高齢化地域で必要な考え方である。

瀬戸地区の灘漁港には、船やごみの不法投棄が問題となっていた。瀬戸地区には5月に地域のイベントがなかったことから、漁港で祭りを行うことになった。この祭りは「よこせと海辺のにぎわい市」という名前が付けられ、毎年5月に行われる恒例行事となった。この祭りは、地域一丸となった取り組みで、連携によるまちづくりの象徴が示された。祭りの運営や模擬店については、周辺の小中学校、地域の組織団体、他地域の出店、企業の協力など幅広い方々の協力で成り立っている。取り組みの効果としては、「漁港を中心としたにぎわいの場の創出」「2020年11月直販施設オープン」「漁港にあった不法投棄ごみの撤去」「放置車両の撤去」の4つが挙げられた。現在では毎年5月の恒例イベントとして行われている。ごみの不法投棄問題解決に向けて始まった取り組みが、現在では複数の団体が協力する恒例イベントとなり、お互いの熱い思いが成果となった。

地域内の組織が協力し合うことで、地域住民間でのコミュニケーションの場が増える。また、祭りの設営や運営に若者が参加することで、祭りが円滑に進み、毎年恒例のイベントへと成功したと考えられる。周辺の小学校や中学校が協力することで、町内会連合会や社会福祉協議会など、幅広い人々の連携が重要であることが示された。



成功事例より、自治会と若者を含む地域内の組織や団体とのコミュニケーションの場を増やし、その若者にも祭りや地域活動に協力してもらうことが重要であると考えられる。また、地域活動や地域イベントの参加者を増やすためには、子どもを対象として考え、高齢者のみの活動を減らし、子どもたちや地域住民へ地域活動を知るきっかけを作ることが重要であると考えられる。

自治会長へのヒアリング調査をもとに、潮見台ニュータウンは、地域の役員は同じ人が継続し、草刈りやごみ拾いについては高齢者が主体となって行っている。若者や若夫婦については仕事での疲れや子育てを理由に不参加の人が多い。

潮見台ニュータウンの若者については自らの地域に誇りをもって地域の長所を知っているが、地域活動については関心が低く、参加率も悪い。車社会の高知県や山の上に建設された団地という特徴から車所持率が高く、地域外へ出ていくことが多い。その結果、地域への関心が低くなり、地域コミュニティへの参加率も悪くなってしまう。

9-3.潮見台ニュータウンへの適用

潮見台ニュータウンの現状や課題を含めた上で、3つの成功事例を分析し、潮見台ニュータウンにも当てはめていく。

・地域内小学校への活用

高齢化が進む潮見台ニュータウン地域でも、周辺は山で囲まれていることや公園が多いことから、実施すると成功すると考えられる。また、潮見台ニュータウンにも小学校があり、このイベントについては小学校で参加を呼び掛けることができるという特徴を生かして、まずは小学校での呼びかけを実施する。

・地域活動の参加率向上への工夫

潮見台ニュータウンの自治会で、清掃活動に参加しない人からは罰金をとるという案が昔挙げられていたが、罰金という言葉に反対意見が多かった。そこで、罰金ではなく「協力金」と「お小遣い」という名前に変更し、まずは子どもたちに清掃活動に参加してもらうことが重要であると考えられる。そして、子どもから親世代である活動的な大人世代や、若者の参加へとつなげていく。

・地域内での祭りの効果

潮見台ニュータウンの夏祭りでは周辺の組織や団体が模擬店を出店している。そこで、夏祭り以外の季節での新たな祭りや、その他の地域活動でも組織や団体の若者に協力してもらい、コミュニケーションの場を増やすことが重要であると考えられる。

9-4.潮見台ニュータウンの今後の展開

既往研究やその他ニュータウン地域の人口推移を分析すると、ニュータウン建設当初子どもだった世代が家庭を持ち、再びニュータウン内や近辺で暮らすことがある。この世代が増えると世代交代が行われ、再び子どもたちや若い世代の大人が増える傾向にある。潮見台ニュータウンは、立地や土地の限度の問題から、必ず世代交代が行われるのか正確ではないが、この世代交代の件も含め、まずは子供をターゲットとしたイベントの実施が重要であると考えられる。小学生の子供たちに向けたイベントを行うことで、小学生の子供を持つ活動的な大人の世代に地域活動への意識を高めることができる。また、成功事例3のように子どもを対象としたイベント

だけでなく、地域の組織や団体と連携し、地域活動を行っていない季節にイベントや祭りを行うことも視野に入れ取り組むことが重要ではないかと考えられる。

10. まとめ

潮見台ニュータウンに住む若者は、日々の生活での疲れや仕事などを理由に地域活動への参加者は少ない。しかし、地域への愛着はあり、地域を盛り上げたいという意識は持っていることが明らかになった。そこで、高齢者や自治会側は若者との交流の場を増やし、地域活動を知るきっかけをさらに増やす必要があると考えられる。また、車がないと不便な立地という理由から、買い物や生活は地域外で行うことが多く、地域活動への認識がさらに低くなってしまっている。そのため、自分の住んでいる地域内での行動を増やすことが重要視される。そこで、地域活動の少ない時期に、地域イベントや祭りの開催をすることで住民間でのコミュニティが増え、地域活動への関心が高まる。そのほかには、子どもを対象としたイベントや子どもを中心とした考えで地域を動かすことが重要である。また、地域活動を知る機会を増やし、家庭を持つ若い世代や活動的な大人世代を対象に地域コミュニティへの関心を高めることを目的とした新たな考え方が重要である。その結果、高齢者だけでなく子どもたちから広がり、世代間交流の場が増えることで、幅広い世代の地域住民みんなが積極的に参加できる地域コミュニティへとつながっていくと考えられる。

謝辞

本研究に関して、お忙しい中ヒアリング調査にご協力いただいた藤川様、片岡様、並びにアンケート調査にご協力いただいた潮見台ニュータウンの住民の方々、そして、研究を進めていく中でアドバイスをいただいた馬淵先生に深く感謝いたします。皆様のご協力とお心遣いでこの卒業論文を作成することが出来ました。

参考文献

・加藤 由利子：「定住と住環境の課題」2000 年，青山学院女子短期大学総合文化研究年報(8)

・伊藤 亜都子、高橋 美佐：「神戸市におけるニュータウンの高齢化と地域コミュニティの現状：須磨ニュータウンを事例として」2016 年，地域政策研究，18(2-3)

・大野 真緒：「神戸研究学園都市における大学と地域コミュニティとの連携の可能性」2018 年，生活環境学研究(6)

・潮見台20周年「記念誌」 最終閲覧日：2021 年 1 月 23 日
2009 年 3 月発行

・高知市の統計 最終閲覧日：2020 年 12 月 13 日
www.city.kochi.kochi.jp/soshiki/toukei1

・イラストイメージ 最終閲覧日：2020 年 12 月 13 日
<https://www.illustimage.com>